

新ほっと石川 観光プラン



はじめに



21世紀は、人々が国境を越え、地球規模で行き交う大交流時代と言われています。そうした中、観光は、交流人口の拡大に大きな役割を担うものであるとともに、人口減少時代における地域の活力の維持向上に大きく貢献できるものと考えています。そして、観光は、その経済効果が幅広い分野に波及する裾野の広い産業です。

これからの観光は、本物、体験による精神的な満足感、充実感を求める方向に動きつつあります。また、海外からの誘客促進が国を挙げての重要な課題になるなど、観光を取り巻く環境の変化に対応した的確な施策の展開が求められています。

幸い、本県には加賀百万石の風土の中で培われてきた、伝統文化、四季折々の風情を奏でる自然環境など、本物や体験ができる素材を数多く有しております。更に、1県2空港を始めとした多様な交流基盤の整備が進むとともに、北陸新幹線の金沢延伸も決定されました。

今後は、これらのインフラと本県の豊富な観光資源を活用し、交流人口の増大を図り、観光産業を本県の基幹産業として成長させていくことが、本県の発展にとって大変重要であると考えております。

このような背景を踏まえ、新たな視点と発想で、本県の観光に関する施策を再構築し、新たな観光戦略を展開するため、この度、「新ほっと石川観光プラン」を策定いたしました。

今後、新たに設ける観光創造会議の委員の方々などのご意見をお聞きしながら、関係機関と連携し、本プランの実現化に努力してまいりたいと考えております。

各市町や関係団体、関連産業各位におかれましては、それぞれのお立場で観光を核として地域の活性化を図っていただきますとともに、県民の皆様方のご理解とご協力をいただきますことを期待しております。

終わりに、プラン策定にあたり精力的にご議論いただきました「観光振興行動計画検討懇話会」の委員の方々をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月

石川県知事 谷本正憲

序 章 ■ 「新ほっと石川観光プラン」の策定にあたって	01
1. プラン策定の趣旨	01
2. プランの全体像	01
第1章 ■ 観光をとりまく環境の変化	02
1. 近年の国内観光の動向	02
2. 国際観光の新しい潮流	02
3. 石川県観光の現状	03
第2章 ■ 観光振興の基本的な考え方	04
1. 石川県観光の目指すもの	04
2. 観光プランの戦略視点	05
3. 観光目標値の設定	06
第3章 ■ 施策の展開	07
施策の体系	07
1. 本物との出会いと豊かな体験	08
2. 海外からの誘客促進	12
3. おもてなしの心とキャンペーンの実施	14
4. アクセスの整備	16
第4章 ■ 地域別施策の展開	18
1. 能登地域 ～豊かな自然となつかしい風景のある、日本の心のふるさと～	18
2. 金沢地域 ～伝統文化に息づく質の高い国際観光コンベンション都市～	20
3. 白山地域 ～白山麓の自然と文化を発信するレクリエーションエリア～	22
4. 加賀地域 ～温泉を中心に多様な観光資源が融合したもてなしの郷～	24
第5章 ■ 推進体制	26
1. 役割分担の明確化	26
2. 県の観光行政組織の強化	26
3. 県観光連盟、(財)金沢コンベンションビューローの機能強化	27
4. 観光基礎データの充実	27

序章 ■ 「新ほっと石川観光プラン」の策定にあたって

1. プラン策定の趣旨

本県では、平成7年に「ほっと石川観光プラン」を策定し、国内旅行を中心に本県への観光入り込み客数を21世紀初頭3,000万人とした目標を掲げ、観光振興のための諸施策を推進してきたが、平成5年の2,228万人と比較し、平成15年には、2,150万人と約3%減少し、目標には至らない状況となっている。

一方、国内全体の宿泊旅行者数が、平成5年と平成15年比較では2割減少という厳しい状況の中で、本県においては宿泊を伴う観光客数は平成5年の909万人が平成15年には820万人と約1割の減少にとどまり、比較的健闘している。

21世紀の我が国は、人口減少時代であると言われており、このような時代を迎え、交流人口の拡大により、地域の活性化を図っていくことが重要になってきていることから、その中核を担う観光に大きな役割が期待されている。

また、平成14年に開催した加賀百万石博の経済波及効果(786億円：日本銀行金沢支店試算)にも見られるように、観光産業は、宿泊業や交通事業だけに留まらず農林水産業、商工業など、幅広い分野に影響を及ぼす裾野の広い産業であると言える。

一方、観光を取り巻く環境は、本物や体験を求めるニーズの多様化やインターネットの急速な普及に加え、能登空港の開港や月浦白尾IC連絡道路の開通、東海北陸自動車道等の高速道路網の整備、北陸新幹線の金沢までの延伸決定などの交通基盤の整備進展、小松空港におけるソウル便の週4便化や上海、成田との定期便の就航など国際線等の開設・増便、また、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」と連携した外国人観光客の誘致推進など、プラン策定から9年が経過する中で、本県観光を取り巻く環境は大きく変化している。

こうした状況の変化に的確に対応し、本県観光産業の活性化を図るため、「新ほっと石川観光プラン」を策定するものである。



金沢/ひがし茶屋街



小松/那谷寺

2. プランの全体像

◆プランの目標年次

10年後の北陸新幹線開業予定の平成26年とする。

◆施策の提案、官民の役割分担と連携

主に、県が主体となって取り組む施策を例示するとともに、市町、観光関連団体等が主体的に取り組むことが望ましい施策についても積極的に提案した。

行政、観光関連団体のほか、宿泊、交通、土産品、更には観光による経済効果の及ぶ農林水産、商業サービス等の観光関連事業者等との連携を図り、観光振興のために参加と協力を呼びかけるものである。

◆推進状況の評価と見直し

提示している施策は、最少の経費で最大の効果を上げるため、その効果を毎年検証しながら推進に努めていく。また、プランを硬直的なものせず、5年後の平成21年を中間評価年とするなど随時見直しを行うこととしている。

第1章 ■ 観光をとりまく環境の変化

1. 近年の国内観光の動向

◆国内宿泊旅行の動向

国土交通省の調査によると、全国の国内宿泊旅行者の延べ人数は、平成15年には1億6千万人であり、10年前の平成5年と比較して約20%の減少となり、国内旅行全体の規模が縮小している。

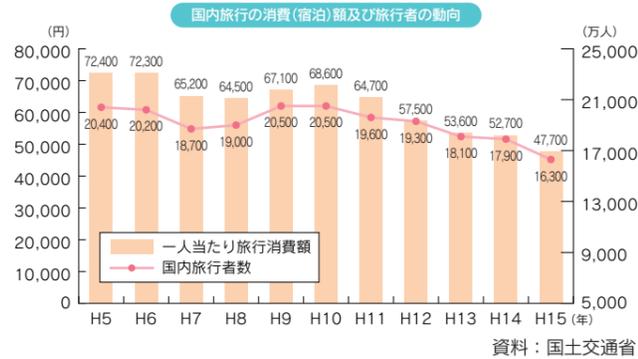
また、国民1人当たりの年間宿泊数や消費額も減少傾向が続いている。

◆観光動向の変化

旅行形態は、これまで主流であった職場や地域などの団体旅行から家族、グループ単位の旅行へと、また目的も、これまでのような単なる遊興飲食を主体とするものから、知的充足や癒し、地域の人との交流など、参加体験を求める「本物志向」へと変化している。

観光を取り巻く環境もインターネットの急速な普及により、旅行に必要な情報をリアルタイムで入手できるようになったことで、思い思いに気軽に旅行するスタイルが今後より一層進むものと見られる。

また、交通インフラの整備の進展は、圏域や県境を越えて自分の行きたいところへ移動する「広域観光」をさらに促進することとなる。



宿泊観光旅行の主な目的(全国)

区分	平成6年	平成14年
慰安旅行	20.5%	15.7%
スポーツ・レクリエーション	18.6%	17.3%
自然・名所・スポーツ見学・行楽	23.5%	26.1%
温泉	13.8%	18.5%

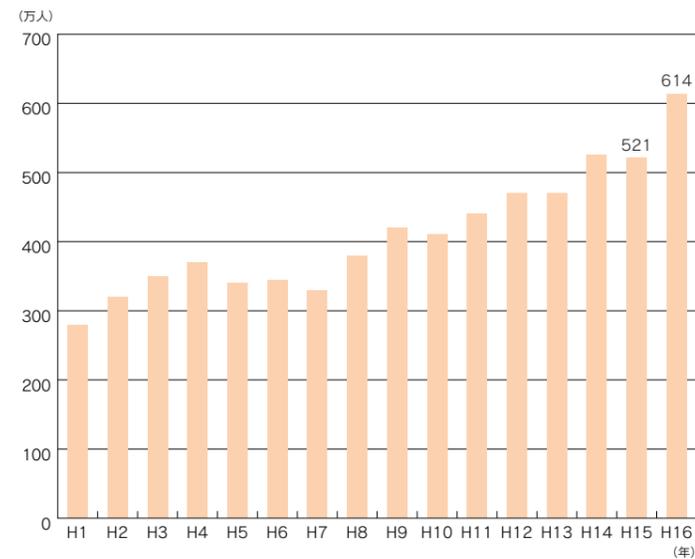
資料：日本観光協会「観光の実態と志向」

宿泊観光旅行の目的地を決定する際に参考とするもの

区分	平成4年	平成14年
家族友人の話	45.5%	41.9%
ガイドブック	38.8%	37.8%
パンフレット	33.4%	35.6%
旅行専門雑誌	20.4%	29.2%
新聞等広告等	17.2%	23.6%
旅行業者	18.9%	19.1%
インターネット	7.3%(平成11年)	18.0%

資料：日本観光協会「観光の実態と志向」

2. 国際観光の新しい潮流



◆海外からの誘客の動き

平成15年に日本を訪れた外国人旅行者数は、約521万人、平成16年は約614万人で、日本から海外への旅行者数1,330万人、平成16年1,683万人と比較すると、大きな差がある。

このため、国においては、2010年を目途に外国人訪日倍増計画(誘客目標1,000万人)を打ち出し、観光立国の実現を目指している。

こうした流れを受け、韓国・中国からの修学旅行生のビザ免除や中国の訪日観光団体旅行ビザの発給対象地域が大幅に拡大されるなど、近隣諸国からの観光客の増加が期待されている。

一方、本県においても、小松・ソウル便の週4便化、小松・成田、小松・上海便の定期便開設等により、海外からの観光客増加に期待が持たれている。

3. 石川県観光の現状

◆交通基盤整備の進展

◇空港の状況

能登空港が平成15年7月に開港し、能登空港を起点として小松、富山空港から帰途に就くという新しい観光ルートが形成された。

国際便についても、平成16年4月から小松・ソウル便の週4便化、6月から能登・台湾定期チャーター便運航、11月から小松・上海定期便開設、更に、小松・成田間の定期便開設など、インフラ整備が進み、国内観光の広域・周遊化と国際便の整備充実により外国人観光客の一層の来訪が期待される。



能登空港

◇道路の状況

平成16年に、北陸自動車道と能登有料道路が月浦白尾IC連絡道路により結ばれ、北陸自動車道から能登方面への利便性が向上し、広域観光が容易となる条件が整ってきた。

また、山中町と福井県丸岡町を結ぶ「丸岡・山中温泉トンネル」の開通を契機とした山中温泉・永平寺間の周遊バス(「永平寺おでかけ号」)の運行など、地域における取り組みも進められている。

◇鉄道の状況

北陸新幹線の金沢までの延伸が決定(平成26年までの開業予定)し、首都圏とのアクセスが2時間30分と大幅に短縮されることから、関東周辺の地域からの観光客が大幅に増加するものと見込まれている。

首都圏、新潟方面からの「はくたか号」や大阪方面からの「サンダーバード号」等の特急列車が加賀温泉や和倉温泉にまで直接乗り入れ、利便性の向上が図られている。

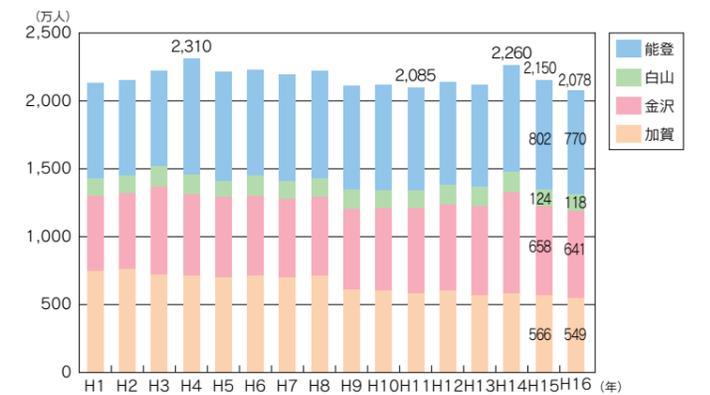
◆観光入り込みの動向

◇全体的な観光入り込み状況

平成15年の石川県の観光入り込み客数は、2,150万人となっている。

これまでの推移を見ると、全国的傾向と同様に、平成4年の2,310万人をピークとして減少に転じ、平成11年には2,085万人とピーク時の約90%にまで落ち込んだ後、増減を繰り返しながらもほぼ横這いの状態が続いている。

なお、平成16年の石川県の観光入り込み客数は2,078万人となっている。



◇発地別の観光入り込み状況

3大都市圏からは、平成3年の1,310万人をピークに減少に転じ、平成11年には670万人となったが、平成12年以降は増加傾向にあり、平成15年には735万人まで回復したものの、平成16年は713万人となっている。

入り込み客数全体における県外客の割合は、6割強を維持している。

一方、平成15年に日本を訪れた外国人は約521万人、平成16年の約614万人は、東京都などの首都圏、京都・大阪などの関西圏、北海道などの地域に集中する傾向が続いており、本県を訪れた外国人は1%に満たないと推定される。



第2章 ■ 観光振興の基本的な考え方

1. 石川県観光の目指すもの

観光の原点は、地域の美しいものや珍しいもの、おもてなしの心など、その地域の住民が誇りとする「光(観光資源)」によって観光客をもてなし、感動を与えることにある。

幸い、石川には長年にわたって育まれた伝統文化、新鮮な山や海の幸、湯量豊富な温泉、豊かな自然、質の高い芸術に触れられる施設の集積など、住む人々が誇りとする光が数多く有り、本物や体験、癒しを求める近年の観光客のニーズにも合致している。

国内外からの誘客を図るために、これらの本物に更なる磨きをかけ、また、併せて新しい観光資源の創出を図りながら、心あたまるおもてなしとともに誘客促進を進めることが重要となっている。

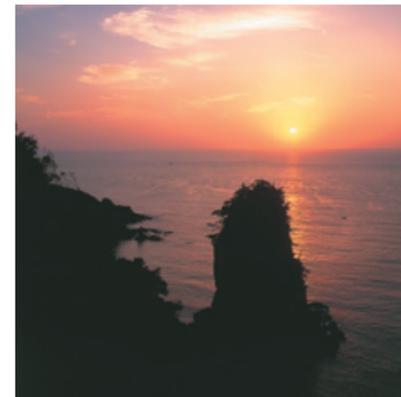
◆加賀百万石に培われた風土(歴史、文化、食)を活かす観光

石川の観光の魅力形成する要素は、加賀料理や日本有数の和菓子など豊かな食文化のほか、能などの伝統文化、輪島塗、加賀友禅、九谷焼などの伝統工芸や風情ある街並みなど多彩であり、これらは石川県の風土そのものである。

これら比類なき加賀百万石の歴史と、そこから生まれたさまざまな文化等を掘り起こし、観光振興に積極的に活用していくことが大事である。



金沢/金沢城公園



富来/巖門

◆石川の優れた自然・温泉・祭りなど固有の資源を活かす観光

本県には、日本三名山の一つである白山から日本の原風景が残る能登まで、四季折々の美しい自然、湯量豊富な温泉とそこで培われてきたおもてなしの文化、能登のキリコ祭りに代表されるさまざまな祭りなど、固有の資源が数多い。

特に、人々の長い営みにより形成され、地域の暮らしに根ざした文化や自然が多く残されていることも本県観光の大きな特徴のひとつである。

これらの資源の保全、維持を図るとともに、観光への積極的な活用を図っていく。



小松空港

◆世界に開かれた扉を活かした国際観光

小松空港におけるソウル便の増便、上海便、成田便の定期便化により、国際便の充実や能登空港における国際チャーター便の就航などにより、特に東アジア諸地域を中心とした積極的な誘客と受け入れ体制の整備を進め、国際観光の振興を図っていく。

また、3大都市圏にも近接していることから、大都市圏を訪れる外国人観光客の誘客を図りやすい環境にある。



片山津温泉/浮御堂

◆石川の観光魅力を訴え「石川大好きファン」をつくる観光

石川を訪れた観光客が、何度も訪れたいような「石川大好きファン」をつくる観光振興策を進めていく。観光地や温泉旅館等の観光施設の魅力アップはもとより、特に、高齢者、障害者、乳幼児連れの夫婦、外国人など、全ての人々にやさしいユニバーサルデザインの推進を図る。

また、第一線で観光客とふれあう機会が多いホテルや旅館、バス、タクシーなどの観光従事者などのおもてなしの心の向上はもとより、県民こそって観光客を温かく迎えるホスピタリティの向上に努める。

2. 観光プランの戦略視点

◆誘客対象

◇誘客対象地域

3大都市圏を最重点地域として位置づけ、特に首都圏については、金沢までの延伸が決定された北陸新幹線の開業を見据えた取り組みを進めるとともに、日帰りできる範囲が拡大している隣県についても誘客の重点地域とする。

◇誘客層

若い世代のファミリー層や子育て終了後の熟年女性、トレンドに敏感な若年女性に旅行意識の高まりが見られることから女性を重点ターゲットとする。

また、今後、定年退職を迎える「団塊世代」や、自由な時間と経済的余裕のある高齢者層を重要なターゲットとする。

◇リピーター客

リピーター客は、家族、知人などに口コミで観光地の魅力を宣伝するサポーターにもなり、重点的な対応が必要である。そのため、おもてなしの心による観光客とのふれ合いや顧客管理による最新情報の提供等を通じてリピーター化を促進していく。

◆石川の魅力

◇本県独自の素材活用

加賀料理や和菓子の食文化、伝統工芸や伝統文化等魅力ある資源を活用する。

◇広域周遊観光の充実

能登空港開港による1県2空港時代を活用した広域・周遊観光ルートの形成と富山県とも連携した観光ルートの発掘により、石川の観光魅力を発信する。

◇温泉地や観光地の再点検と創造

地域自らが主体性を持って、個性づくりによる魅力アップ等を図り、リピーターが増加する観光地を目指す。

◆PR媒体

◇旅行代理店、交通機関の活用

旅行代理店商品企画による観光需要を喚起するとともに、海外誘客推進のための交通機関をも活用した効果的なPR活動を展開する。

◇旅行雑誌、テレビ、インターネットの活用

観光の動機や旅行を決める重要な情報源として活用し、効果的なPR活動を展開する。

◆海外誘客対策

◇国ごとの効果的な誘客方法

アジア各国の観光ニーズとしては、「自然」や「温泉」が共通して好まれるが、韓国ではゴルフやスキー、台湾では雪や食文化、中国では買い物や景観に対する関心が高いほか、韓国における訪日修学旅行の拡大傾向など、各国の市場特性も異なっているため、その特性を踏まえた情報発信など効果的な誘客方を講じていく。

◇留学生や国際交流協会との連携

外国からの多数の留学生が帰国後、本県魅力を口コミにより直接発信する役割を果たしてくれることで、大きな誘客効果が期待できる。

また、国際交流協会が実施する外国人との交流を活用した本県魅力の発信も大きな誘客の視点であり、そのため、留学生や国際交流協会との連携・協力による誘客体制づくりを構築していく。



金沢市内夜景



金沢/西田家庭園「玉泉園」



栗津温泉/おっしょべ物語像



金沢大学留学生

第3章 ■ 施策の展開

3. 観光目標値の設定

◆ 入り込み客数の目標設定

入り込み客数については、今後の観光振興施策の効果測定・評価の指標として位置づけ、3大都市圏及び海外からの誘客を重点目標として位置づける。

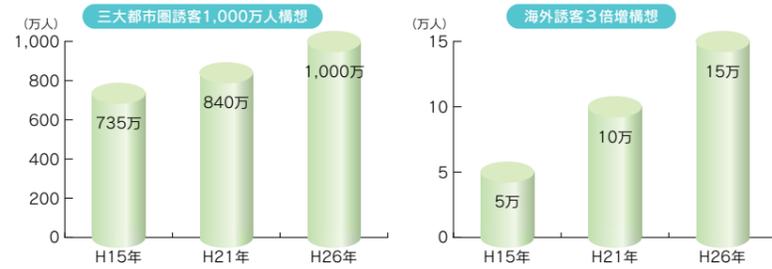
◇ 3大都市圏 ～3大都市圏誘客1,000万人構想～

3大都市圏は、本県の誘客の重点ターゲットであり、過去5年間の入り込み客数の平均伸び率2.2%を基準に各種施策の充実を図り、平成15年の735万人を平成21年に840万人(14%増)、平成26年には北陸新幹線等の効果を加え1,000万人(36%増)とする。

発地別	H5年(実績)	H10年(実績)	H15年(実績)	H21年(目標)	H26年(目標)
3大都市圏	1,120万人	719万人	735万人	840万人	1,000万人
海外	-	-	5万人	10万人	15万人
隣県	330万人	269万人	260万人	290万人	315万人
その他(県内客含む)	780万人	1,130万人	1,150万人	1,160万人	1,170万人
合計	2,230万人	2,118万人	2,150万人	2,300万人	2,500万人

◇ 海外 ～海外誘客3倍増構想～

海外誘客は、国の訪日外国人倍増計画、いわゆる「ビジット・ジャパン・キャンペーン」とのタイアップに加え、ソウル便、上海便、台湾のチャーター便の利用促進を図り、韓国、中国、台湾などの東アジアを重点地域とするとともに、成田便の利用促進によりアメリカやヨーロッパなどからの誘客も促進するなど、国際航空路線網の充実整備と実効性ある誘客対策を講ずることにより、平成15年の5万人を平成21年に10万人(2倍)、平成26年には15万人(3倍)とする。



◇ 隣県

安近短傾向の強まる中で、隣県は3大都市圏に次ぐターゲットであり、過去5年間の入り込み客数の平均伸び率2.0%を毎年の伸び率とし、平成15年の260万人を平成21年に290万人(12%増)、平成26年には315万人(21%増)とする。

◆ 観光消費額の目標設定と経済波及効果



◇ 観光消費額の目標設定

観光消費額については、地域の観光振興の取り組み成果を表す重要な指標として新たに設定することとし、その目標値については、消費者物価指数の伸び率0.1%(平成16年10月29日、日本銀行発表平成17年度「消費者物価見通し」)より)を勘案して、平成21年を3,000億円(平成15年2,743億円の9%増)、平成26年を3,200億円(同17%増)に設定する。



◇ 経済波及効果の推計

旅行や観光は、観光産業と称される旅行業、宿泊業、土産物販売業への直接効果はもとより、飲食業、農林水産業、金融、通信、製造業など、幅広い産業分野に及び、地域の経済や雇用創出に大きな影響を与える。

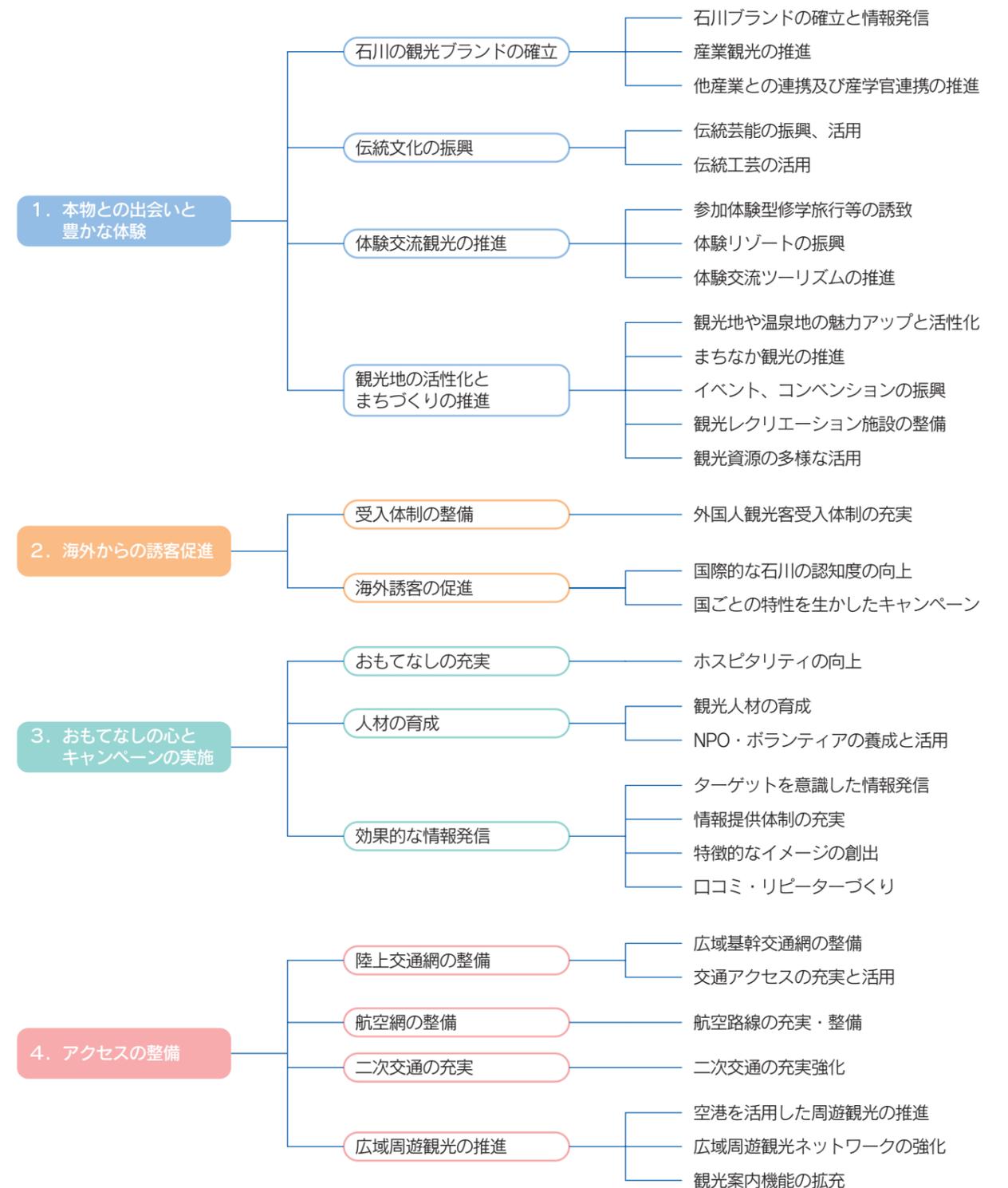
本県の平成15年の観光消費額は、2,743億円であるが、うち県外からの仕入や旅行代理店に支払う手数料等の占める割合を仮に15%と想定すると県内での直接の観光消費額は2,332億円となる。

これに本県の産業連関表における経済波及係数1.6(県内産業平均)を乗じると3,730億円となり、平成21年は4,080億円(9%増)、平成26年は4,350億円(17%増)と推計される。

施策の体系

観光振興にあたっては様々な取り組みが求められるが、施策を効率的、効果的に展開するためには、施策を体系化して推進するとともに、県、地域、民間がそれぞれの役割を分担し、連携しながら進めることが大切である。

以下、施策の体系に沿って、県が主体となって取り組む施策を例示するとともに、地域や民間が主体的に取り組むことが望まれる施策について提案する。



1. 本物との出会いと豊かな体験

全国的に高い知名度を誇る城下町金沢、関西の奥座敷とも言われる加賀温泉郷、新鮮な海の幸や素朴な風土が残る能登半島、豊かな自然に恵まれた白山麓など、石川県には個性豊かな観光資源が数多く分布している。また、輪島塗や九谷焼に代表される伝統的工芸品や歴史的な祭り、芸能など質の高い伝統文化が今に伝えられるなど、石川県の観光資源は独自の高い価値を有している。

石川県の魅力を伝え、そのファンを増やしていくためには、効果的な情報発信を行い、来訪の観光客に本物に出会い、体験してもらうことによりその魅力をより深く知っていただくことが大切である。そのため、様々な資源に更に磨きをかけることはもちろんのこと、温泉地など観光客を迎える地域全体の魅力を高めていくことが重要である。



金沢/兼六園



かぶら寿し



七尾/石崎奉燈祭



白山/てくまわし

(1) 石川の観光ブランドの確立

① 石川ブランドの確立と情報発信

- ◆ 地産地消の推進
生産・販売の連携体制の促進、地域素材を使ったモデル料理・加工品の普及
- ◆ 石川ブランドの情報発信
統一コンセプトによる「石川の観光ブランド」として発信、都市圏の「いしかわブランド推奨店(仮称)」の認定

市や町、関係団体等が主体的に取り組むもの

- ◆ 地産地消の推進
地域の食材や製品の提供施設のグループ化、加賀・能登野菜等の魅力素材の発掘・情報発信、モデル商品の開発
- ◆ 石川ブランドの情報発信
都市圏のアンテナショップの拡充、都市圏での流通業と連携した情報発信、食のイベントの開催

② 産業観光の推進

- ◆ 産業観光の充実・強化
産業学習ルートの設定

- ◆ 製造工場等への観光客の受入促進
発酵食品を中心とした食品製造業の集客施設の設置、陶芸及び漆器販売プラザの設置
- ◆ 産業観光の充実・強化
企業の観光対応の促進、廃鉱山や明治・大正期の建築物等の近代遺産の活用

③ 他産業との連携及び産学官連携の推進

- ◆ 他産業との連携の推進
経済波及効果の調査実施・啓発
- ◆ 新たな観光関連産業創造に向けての産学官連携の推進
温泉成分を活用した医薬部外品・特定保健用食品・化粧品等の研究開発への支援

- ◆ 他産業との連携の推進
温泉旅館と医療分野等との連携によるライフケア産業の創出、観光のグリーン化の推進、IT分野との連携強化
- ◆ 新たな観光関連産業創造に向けての産学官連携の推進
観光関連研究施設の検討等

(2) 伝統文化の振興

① 伝統芸能の振興、活用

- ◆ 伝統芸能の振興、活用
伝統芸能の継承発展、小中学校における地元芸能体験

- ◆ 伝統芸能の振興、活用
劇団の稽古場・芝居小屋の誘致、酒屋唄や加賀鶯などのイベント活用、伝統芸能の保存と後継者育成

② 伝統工芸の活用

- ◆ 伝統工芸の活用
日本の至宝の旅プロジェクトの推進

- ◆ 伝統工芸の活用
観光土産品開発、後継者育成、旅館と工房が連携した販売活動、工芸体験による制作物のまちなか展示

(3) 体験交流観光の推進

① 参加体験型修学旅行等の誘致

- ◆ 学校、旅行代理店等との連携
学習塾等多様な学校との連携、学習効果の明示等による旅行代理店等との連携、大学合宿・企業研修等の誘致
- ◆ 受入れ体制の拡充
コーディネーター等の人材の育成

- ◆ 受入れ体制の拡充
受入れ宿泊施設の拡充、農林水産・伝統産業等の多彩な体験メニューの創出
- ◆ いしかわふるさとづくり
第二のふるさとづくり、自動車学校合宿の誘致

② 体験リゾートの振興

- ◆ 多様な体験プログラムづくり
伝統工芸等を生かした滞在プログラムの提案

- ◆ 多様な体験プログラムづくり
スカイレジャー・ゲートボール等多様なスポーツ拠点づくり
- ◆ 新たな体験・交流空間の形成
市民農園の推進、外国人や子供などの新たな層によるスキー場・ゴルフ場の利用促進、スポーツイベント・草花の植栽等によるスキー場の閑散期対策、観光牧場・乗馬施設等の新たな観光施設の誘致

③ 体験交流ツーリズムの推進

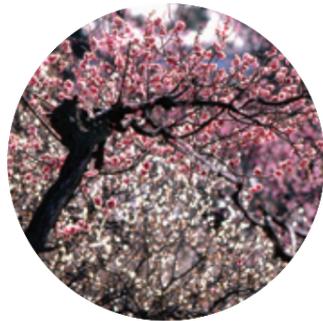
- ◆ グリーン・ツーリズムの推進
インストラクター等の人材の育成、受入れマニュアルづくり
- ◆ エコ・ツーリズムの推進
インタープリター等の人材の育成、受入れマニュアルづくり

- ◆ グリーン・ツーリズムの推進
受入れ者のネットワークづくり、全国適用された規制の特例措置の活用、多様なツアーメニューの提案
- ◆ エコ・ツーリズムの推進
地域別エコミュージアムの整備、多様なツアーメニューの提案

1. 本物との出会いと豊かな体験



(4) 観光地の活性化とまちづくりの推進



① 観光地や温泉地の魅力アップと活性化

- ◆ 世界に通じる観光資源づくり
世界的に価値のある文化・自然遺産の保存と観光資源としての活用
- ◆ 景観条例等による景観の保全と創出
広告看板の規制と誘導、景観アドバイザーの設置

② まちなか観光の推進

市や町、関係団体等が主体的に取り組むもの

- ◆ 既存観光地の魅力の向上
観光地再生の推進、観光地の美化運動の推進
- ◆ 世界に通じる観光資源づくり
観光資源の再認識
- ◆ 景観条例等による景観の保全と創出
良好な景観の保全と創出、廃看板等の処理促進
- ◆ 環境に配慮した観光の推進
観光廃棄物のリサイクル推進、環境に配慮した交通機関・宿泊施設等の推進
- ◆ 宿泊施設の多様化の促進
公営宿舎及び民宿の魅力向上の促進、泊食分離やリーズナブルプランなど多様な宿泊形態の促進、スポーツ施設と宿泊施設との連携
- ◆ 個性ある温泉地まちづくり
加賀温泉郷夏まつり等の開催、街並み修景事業の推進、歴史等テーマ性のある温泉地の演出、温泉地での昼間観光の充実、まちづくり団体や地域づくり団体との連携、組合単位でのネット予約対応など情報技術の活用促進
- ◆ 個性ある温泉施設づくり
温泉旅館の再生、温泉及び施設の情報提供、信頼できる安心安全の施設づくり、テーマ性のある旅館づくり
- ◆ 健康維持と癒しの温泉地づくり
温泉効能のPR及び温泉療法の普及、予防医学・スポーツ医学との連携、温泉入浴アドバイザーの設置促進
- ◆ 高齢社会に配慮した温泉地づくり
高齢者を対象とした宿泊施設におけるユニバーサルデザイン等の推進

③ イベント・コンベンションの振興

- ◆ 全国イベントの開催・誘致
地域の観光素材を「宝」とした加賀博・能登博(仮称)の開催、国内外から集客できる大型博覧会・イベントの開催・誘致

- ◆ 観光に配慮したまちづくりの推進
街並み景観づくりの促進、パーク&バスライド及びパーク&ウォークの推進、屋台・仮設店舗等による賑わいの創出、魅力的なテーマ・コースの設定、レンタサイクルの活用
- ◆ まちなか観光への住民参画の促進
地域住民への観光情報の提供・啓発、住民ガイドづくり、地域による手作り観光マップづくり
- ◆ 観光客のまちなか消費の促進
商店街とタイアップした観光イベントの開催、観光客に親しまれる店舗・商品の演出、地元店の観光客対応の促進
- ◆ まちなか行動を支援する情報提供の充実
携帯情報機器への情報提供の促進、地図情報でのきめ細かな情報提供、コンビニエンスストアや有料情報ボックス等を活用した情報提供体制の充実

④ 観光レクリエーション施設の整備

- ◆ 美しい農山漁村観光地づくり
交流・体験施設の整備
- ◆ 豊かな自然観光地づくり
国立公園・国定公園の整備、自然史資料館(仮称)の整備、全国トレッキング大会の開催(白山)、保健休養林施設の整備
- ◆ 海洋を活用した観光地づくり
海洋レクリエーション施設の利活用の強化、観光客船の寄港の拡大

- ◆ 魅力あるイベントの創出
プロスポーツ等フランチアイズの誘致の検討、温泉・陶器・花木等をテーマとしたイベントの開催、伝統的な祭りやイベントの観光活用
- ◆ コンベンション開催の推進
コンベンションの誘致と創出、アフターコンベンションの情報発信、コンベンション産業の育成

⑤ 観光資源の多様な活用

- ◆ 伝統的な祭りや伝統行事等の活用
民俗伝承行事・祭り・寺院巡りの旅の提案
- ◆ 歴史資源の発掘と活用
万葉集や民話の地を巡る旅の提案
- ◆ 新たな資源の発掘と活用
白山眺望点等の県民参加の「宝探し」の推進
- ◆ テーマ性溢れる多様なツーリズムの促進
和・洋菓子ツーリズムの提案、能登牛・カキ・塩等の農林水産物ツーリズムの提案、視察研修ツーリズムの提案、映画・ドラマのロケ地ツーリズムの提案

- ◆ 美しい農山漁村観光地づくり
棚田等農村景観の保全対策、農山漁村での空屋・農地等の活用
- ◆ 豊かな自然観光地づくり
名木・巨樹等の樹木の観光活用
- ◆ 海洋を活用した観光地づくり
七尾湾釣り堀構想の提案
- ◆ 水辺空間を活用した観光地づくり
水辺の維持・保全と環境美化、海・河川・湖を巡る水運の活用、宿泊・スポーツ施設等との連携
- ◆ 伝統的な祭りや伝統行事等の活用
地域の祭りを紹介するまつりネットワークの構築
- ◆ 歴史資源の発掘と活用
各地の庭園・城郭・史跡の活用、松尾芭蕉等のゆかりの歴史的著名人の活用、伝統的街並みを活用した「ツアー」の推進
- ◆ 新たな規資源の発掘と活用
朝・夜の観光の創出、専門家と連携した照明・演出の研究、農山漁村景観の観光活用、地域の祭りの復興
- ◆ テーマ性溢れる多様なツーリズムの促進
日本の原風景「能登」を巡る旅の検討

2. 海外からの誘客促進

平成16年2月に日本海側で初めて開催された世界観光機関(WTO)石川会議において、「石川県の知名度はほとんどない。もっとPRが必要である。」との外国人からの意見を踏まえ、海外に対し石川県の観光資源等を積極的に発信し、認知度の向上策を展開する必要がある。

また、本県がターゲットとする東アジア諸国では、温泉や自然はほぼ共通した関心が持たれている一方で、中国では電化製品等の買い物や食文化、韓国ではゴルフ、スキー、台湾では純和風のもてなしや日本食への関心が高いことなど、国により観光ニーズにそれぞれ特徴がみられる。

このため、海外からの誘客に当たっては、国別の観光ニーズを把握し、これらに対応したプロモーションの展開が求められる。



能/加賀宝生



門前/総持寺

(1) 受入体制の整備

外国人観光客受入体制の充実

- #### 県が主体的に取り組むもの
- ◆ 外国人観光客のニーズの把握
国別のアンケート調査の実施、外国人による観光地診断の促進
 - ◆ 国際交流活動の促進
インターナショナルスクール等との連携、各種の国際交流施設の活用
 - ◆ 各国語対応の充実
ボランティア組織や地元大学等と連携した通訳体制の拡充、案内板等の各国語対応の充実
 - ◆ 内外価格差の是正促進
ウェルカムカードの導入の検討

- #### 市や町、関係団体等が主体的に取り組むもの
- ◆ 国際交流活動の促進
ジャパンテントを活用した国際的なファンクラブの形成
 - ◆ 各国語対応の充実
交通機関の各国語対応の充実、外国人に配慮したカーナビゲーションシステム等の充実、外国人に配慮した宿泊施設づくりの推進

(2) 海外誘客の促進

① 国際的な石川の認知度の向上

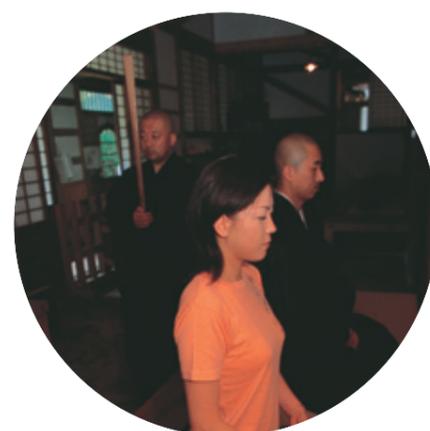
- ◆ 海外の広告媒体等との連携
招へい事業等による本県魅力の発信、出向宣伝等のタイアップ企画の推進
- ◆ 海外向けの観光情報の充実
国別パンフレットの作成、県ホームページの各国語対応の充実
- ◆ 海外のテレビ・映画との連携
映画やドラマのロケ地誘致、石川の映像コンテンツのプロモーションの実施

- ◆ 海外のテレビ・映画との連携
ロケ地ツアーの展開

② 国ごとの特色を生かしたキャンペーン (中国、韓国、台湾、欧米等)

- ◆ ビジット・ジャパン・キャンペーンとの連携
国際観光振興機構(JNTO)との連携促進、県海外事務所の誘客活動の強化、ガイドブック作成等の広域連携事業の推進、韓国・中国からの修学旅行生のビザ免除に対応した修学旅行の誘致
- ◆ 県民による草の根の県民海外誘客運動
海外進出企業を活用したPR活動
- ◆ 海外旅行代理店とタイアップした誘客促進
旅行代理店への助成制度の推進
- ◆ 国際会議・イベントの誘致
国際会議への助成制度の推進

- ◆ 県民による草の根の県民海外誘客運動
海外渡航者によるPR活動、姉妹都市を活用したPR活動
- ◆ 海外旅行代理店とタイアップした誘客促進
海外の旅行代理店とタイアップしたSIT(スペシャル・インタレスト・ツアー)等の誘致
- ◆ 国際会議・イベントの誘致
財金沢コンベンションビューローや大学研究機関との連携



座禅体験



和菓子体験



白山麓スキー場

3. おもてなしの心とキャンペーンの実施

観光石川を支える上で重要なおもてなしの向上のため、温泉地等で培われた高い水準の「プロのおもてなし」はもとより、交通事業者、地域の商店街等の各種事業者、さらには県民一人ひとりが温かいおもてなしを心がけていく必要がある。

また、観光客の快適な県内移動を支援するため、公共交通機関、交通基盤、案内標識及びトイレ等の利便施設の整備を推進するとともに、移動の行程自体が観光となるような観光の魅力の演出に努めていく。

この他、「誰でも自由にどこへでも」旅が楽しめるよう観光地、宿泊施設、交通機関等のバリアフリー化や絵文字による表示、補助犬等の受け入れなど、観光に関わる様々な分野におけるユニバーサルデザインを推進していく。

地域イメージの向上及び現地での観光行動を支援する具体的な観光情報の発信により、観光客の来訪促進及び再来訪への展開を図っていく。このため、費用対効果も考慮した対象の絞り込みや、タイムリーな情報の発信、観光客の興味に応じた情報の構成などについて検討していく。

また、石川の観光情報提供体制における市町・民間団体との連携強化及び観光に関わる各分野の情報発信体制の統合を図っていく。



「加賀百万石ウォーク」



観光ガイド「ようござった」

(1)おもてなしの充実

ホスピタリティの向上

- #### 県が主体的に取り組むもの
- ◆ユニバーサルデザインの推進
ユニバーサルデザインを取り入れたおもてなしの醸成
 - ◆県境域でのおもてなし活動の充実
案内板等による情報提供の促進
 - ◆満足度向上のためのモニター制度等の構築
観光モニター制度の活用、観光客満足度調査の実施

- #### 市や町、関係団体等が主体的に取り組むもの
- ◆県民総参加によるおもてなし
ホスピタリティ向上のための啓発活動、交通機関・飲食店等での歓迎ステッカー・看板掲示の促進、街角の商店等での観光案内の促進
 - ◆県境域でのおもてなし活動の充実
峠の茶屋づくりの促進
 - ◆満足度向上のためのモニター制度等の構築
様々なタイプの観光目安箱の設置
 - ◆観光サービスの充実
観光サービスのためのおもてなしマニュアルづくり、サービス水準向上のための研修の充実
 - ◆クレジットカード等が使える観光地づくり
総合的利便性の高いカードの検討、カード利用施設の促進、観光施設等でのクーポンの活用検討

(2)人材の育成

①観光人材の育成

- ◆観光リーダーの育成
ツーリズムセミナー等による業界リーダーの育成
- ◆観光教育の充実
高校等での多様な外国語教育の充実、小中高等学校でのふるさと学習の推進
- ◆表彰認証制度の拡充
観光マイスター顕彰制度の創設

- ◆観光リーダーの育成
観光アドバイザーの養成、外国人観光客対応人材の育成
- ◆観光実務者の育成
優良施設での研修等による人材の誘致・育成、観光分野でのIT人材の育成
- ◆観光教育の充実
観光専門高等教育機関の誘致・育成
- ◆表彰認証制度の拡充
各種団体等の実施する表彰制度の活用

②NPO・ボランティアの養成と活用

- ◆観光とまちづくり活動との連携
専門アドバイザー派遣制度の検討、大規模イベント等に対応可能な臨時観光支援組織の結成

- ◆観光とまちづくり活動との連携
NPO・地域づくり団体等によるまちづくり活動との連携
- ◆観光ボランティアガイド等の育成
生涯学習活動等と連携したガイド研修の実施、主要観光地等でのガイドの常駐の検討

(3)効果的な情報発信

①ターゲットを意識した情報発信

- ◆ファミリー、女性、団塊世代、高齢者を対象とした情報発信
メディアとのタイアップ企画・商品化の推進、女性モデル等著名イメージリーダーの活用
- ◆ターゲットに合わせた広報メディアの活用
各種雑誌との連携によるキャンペーン活動の推進、地元誌・フリーペーパー(無料配布の新聞)等の地元メディアの活用、高速バス内でのPR活動の推進
- ◆隣県等との広域連携による情報発信
観光情報の相互発信等による共同キャンペーンの展開、県人会や加賀藩ゆかりの地など都市圏との繋がりを生かしたPR活動

- ◆ファミリー、女性、団塊世代、高齢者を対象とした情報発信
専用ホームページの設置促進

②情報提供体制の充実

- ◆観光情報提供拠点等の整備
首都圏での情報拠点施設の強化のためのコンビニエンスストアとの連携、京都でのPR拠点の検討、県内での情報センターの設置検討、iマークの再構築
- ◆インターネットの活用
携帯電話等を活用したクイック・レスポンス・システムの構築
- ◆情報提供体制の一元化
石川の観光情報PRの一元化

- ◆観光情報提供拠点等の整備
市場・朝市等での情報提供施設の設置
- ◆インターネットの活用
ホームページによるネット旅相談システムの検討

③特徴的なイメージの創出

- ◆メディア等を活用した観光イメージの創出
フィルムコミッション等と連携した朝の連続ドラマ等の誘致
- ◆観光のイメージキャラクターの創出
ほっと石川イメージキャラクターづくりの検討

- ◆メディア等を活用した観光イメージの創出
兼六園や金沢城公園を活用した趣のある多彩なイベントの開催

④口コミ・リピーターづくり

- ◆口コミやリピーターに繋がる取り組み
石川ゆかりの人物や石川ファン等による観光PR、ほっと石川観光倶楽部等を活用した旬の観光情報の提供

4. アクセスの整備

北陸新幹線、東海北陸自動車道、能越自動車道などの高速交通網の整備促進や、航空便の充実など、交通基盤の充実を図っていく。また、北陸自動車道と能登有料道路の直結や県内移動のために必要な案内機能やバス、タクシー等の二次交通などを拡充していく。

このほか、アクセス過程も観光の魅力として位置づけ、道の駅やレトロバスなど観光の視点に立った交通機能の整備を図っていく。



金沢/主計町



金沢/石伏坂(W坂)



七尾/能登島大橋

		県が主体的に取り組むもの	市や町、関係団体等が主体的に取り組むもの
(1)陸上交通網の整備	① 広域基幹交通網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高速交通網の整備 北陸新幹線の整備促進、能越自動車道の整備促進 ◆ 道路交通ネットワークの整備 観光周遊道路の整備促進、隣県との連絡道路の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高速交通網の整備 近隣県での高速交通網の整備促進
	② 交通アクセスの機能充実と活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 交通利便機能の拡充 道の駅、休憩所・トイレなどの充実、冬期及び積雪時の交通円滑化の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 交通アクセスを活用した観光の創出 伝統工芸と連携したシンボルロードづくりなど主要道路でのテーマ街道づくり、レトロ・ライトアップバスの充実
(2)航空網の整備	航空路線の充実・整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 航空路線の充実・整備 国内線の充実・整備、国際線の充実・整備、他空港との連携 	
(3)二次交通の充実	二次交通の充実強化		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 二次交通の充実強化 周遊バス等の交通網の拡充、バス共通プリペイドカード・乗車フリー券等の検討、鉄道・バス等と連携したレンタカーの利用促進、北陸新幹線の開業を見据えた二次交通の充実
(4)広域周遊観光の推進	① 空港を活用した周遊観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 空港を軸とする三極(小松・能登・富山)ネットワークの形成 能登・小松・富山空港の周遊ルートづくり ◆ 空港からのアクセス利便性の向上 ふるさとタクシー等の空港接続アクセスの充実、空港及び空港接続バス内におけるPR活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 空港を軸とする三極(小松・能登・富山)ネットワークの形成 3空港関連の往復割引切符等の検討
	② 広域周遊観光ネットワークの強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広域連携の推進 広域連携による広域観光のテーマづくり・情報発信 ◆ 観光施設の連携による回遊促進 県内外施設共通カードの発行検討 ◆ 広域周遊を可能にする交通ネットワークの構築 骨格的な広域道路の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 観光施設の連携による回遊促進 観光施設の連携強化、周遊バス等の運行促進 ◆ 広域周遊を可能にする交通ネットワークの構築 県域を超えたバス、タクシーなどの二次交通の整備、広域レンタカーネットワークの構築
	③ 観光案内機能の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 観光案内機能の拡充 各種案内板のデザイン等の統一、駅・空港等での案内所の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 観光案内機能の拡充 電子案内表示システムの構築

第4章 ■ 地域別施策の展開

1. 能登地域 ～豊かな自然となつかしい風景のある、日本の心のふるさと～



見附島

能登地域は、豊かな自然環境と、地域の祭りや独自の食文化(全国的にも評価の高い新鮮な魚介類、伝統的な野菜類、地酒、いしる等の発酵食品など)が相まって、「日本の原風景」とも言うべき素朴さを残している。

また、平成15年の能登空港開港による首都圏からのアクセスの向上や、東海北陸自動車道、能越自動車道の整備進展などで、都市圏の在住者にとって急速に身近な地となりつつある。

このため、地域に残る様々な自然、伝統文化を観光資源として活用、情報発信するとともに交通基盤の拡充を生かした観光振興を図り、今後の交流人口の拡大を目指していく。

◆豊かな自然環境の保全と活用

千里浜、能登金剛、九十九湾など、変化に富んだ美しい海岸線、ゆるやかで広がりをもった丘陵地は優れた自然美を形成し、能登地域の貴重な資源となっていることから、今後とも良好な状態に保全していくとともに、その魅力を多くの人達に知ってもらい、体験してもらえよう取り組みを進めていく。

【施策例】

- ◇豊かな自然を活用するエコ・ツーリズムの推進
 - ・自然環境に精通した専門家の組織化、インタープリター等人材の育成
 - ・多様なツアーメニューの提案
- ◇海洋を活用した観光地づくり
 - ・木の浦海中公園におけるスキューバダイビングの拠点化
 - ・七尾港・輪島港への観光客船の寄港誘致
- ◇七尾湾釣り堀構想の提案
 - ・釣り大会イベントの開催、釣り関連施設の整備
- ◇山間地における豊かな生態の保全と活用
 - ・雪割草など地域の貴重な植生の保全と情報発信、ノトキリシマツツジなど地域の花木の植栽による新たな観光地づくりの推進

◆地域に根ざした生活文化の継承と発信

本地域は、各地のキリコ祭りやアエノコトなど特色のある祭り・民俗伝承行事や、輪島塗、珠洲焼などの伝統的工芸品、朝市などの食文化、千枚田などの懐かしい農村景観など、地域の生活に根ざした資源が多くあるが、近年の「スロートーリズム」志向とともにその価値が改めて認識されていることから、その継承と保全を図りつつ、情報発信を通じた観光振興を図っていく。

【施策例】

- ◇グリーン・ツーリズムの推進
 - ・受入農家・漁家等への研修の実施とネットワーク化
 - ・農林漁業体験や郷土料理、生活文化などのインストラクター人材の育成
 - ・多様なメニューの提案と情報発信の推進
- ◇地域文化に根ざした観光集客施設の整備
 - ・発酵食品を中心とした食品製造業の集客施設の設置



能登町柳田植物公園

- ・輪島塗、能登上布などの伝統的工芸品販売拠点の整備
- ◇地域文化・歴史を活かした観光メニューの創出
 - ・万葉集ゆかりの地のネットワーク化と情報発信、ツアーの提案
 - ・のと鉄道におけるディーゼル車など往年活躍した鉄道車両の運行、沿線の見所づくり、物産販売などの検討
- ◇地場産品の観光資源活用の強化
 - ・輪島朝市など定期市における休日開催
 - ・定期市や特産品販売施設が連携した地域の食文化情報の発信、シンポジウム・イベント等の開催
 - ・能登空港を活用した地場産品の首都圏への移出拡大
- ◇公営宿舎・民宿の魅力アップ
 - ・公営宿舎の施設のリニューアル
- ◇「祭り半島のと」の実現
 - ・地域の祭り情報の発信による祭り半島イメージの形成



輪島塗

◆温泉の活用と活性化

国内有数の温泉地である和倉温泉や輪島温泉郷のほか、各市町にも温泉施設が立地している。このため、温泉の更なる活用を図るとともに、温泉地におけるおもてなしの向上や景観に配慮したまちづくりを通じた観光振興を図っていく。

【施策例】

- ◇和倉温泉のまちづくりの推進
 - ・足湯・手湯施設の整備、案内板・ベンチなどの一体的な整備による雰囲気演出
- ◇能登地域の各温泉地、温泉施設の連携
 - ・日帰り温泉施設の共通パスポートの発行等による周遊促進
- ◇温泉旅館の再生
 - ・利用者・専門家などの評価を取り入れたサービス向上システムの導入
 - ・ユニバーサルデザインによる施設の整備
- ◇日帰り対応の強化
 - ・旅館の入浴施設の開放、旅館相互の共同割引システムの導入
- ◇健康維持と癒しの温泉地づくり
 - ・温泉効能のPR及び温泉療法の普及



和倉温泉

◆都市部からのアクセス環境の整備

能登空港の開港を契機として、能登地域の恵まれた自然、文化資源に対する注目度が高まっていることから、空港等の交通要所からの二次交通の充実、道路網の整備など、域内における快適な移動が可能な環境づくりを進め、更なる誘客につなげていく。

【施策例】

- ◇高速交通網の整備
 - ・能越自動車道の整備促進
- ◇道路ネットワークの整備
 - ・観光地へのアクセス道路の整備
- ◇七尾港における旅客岸壁の整備

2. 金沢地域 ～伝統文化に息づく質の高い国際観光コンベンション都市～



兼六園「時雨亭」

県都金沢は、北陸の観光の拠点として、また経済活動の中心として、その知名度も全国トップ級の評価を得ている。また、ファッションや芸術など多彩な近代文化を兼ね備え、兼六園、金沢城公園、伝統的な街並みや様々な伝統工芸など、藩政以来の歴史的資源が継承された新旧文化の融合した特徴的な地域となっており、国際的なコンベンションも多く開催されている。

また、北陸新幹線の金沢延伸が決定するなど、交通網の整備進展に伴う更なる観光客の増加も見込まれることから、今後とも本物を提供する質の高い観光地づくりに努めていく。

◆まちなか観光の充実

観光ボランティアや商店など、地域の様々な人々の参画を得ながら、まちなかを歩いて楽しむための仕組みづくりを進めるとともに、イベントの開催やコンベンションの誘致などを通して集客の拡大を目指していく。

【施策例】

- ◇歩いて巡るまちなか観光の促進
 - ・こまちなみ、寺院群などを巡るまち歩きルートの整備
 - ・パークアンドバスライドの推進
 - ・ライトアップバスなど特徴ある交通機関の運行
 - ・レンタサイクルの活用
 - ・携帯電話などの情報機器へのまち歩き情報の提供
 - ・コンビニエンスストア等を活用した情報提供体制の充実
- ◇コンベンション開催の推進
 - ・大学や研究機関などと連携したコンベンションの誘致
 - ・通訳のできるスタッフなどコンベンション人材の育成
 - ・多彩なアフターコンベンションメニューの提案
 - ・コンベンション参加者への宿泊施設などの割引制度や手軽に伝統芸能等の文化体験ができるシステムづくり



長町武家屋敷跡土堀

- ◇観光客のまちなか消費の促進
 - ・商店街とタイアップした観光イベントの開催
 - ・観光客に親しまれる店舗・商品の演出
- ◇国内外から集客できる大型博覧会・イベントの誘致
- ◇兼六園や金沢城公園を活用した趣のある多彩なイベントの開催
- ◇夜の観光資源の開拓
 - ・商店の開店時間延長など、施設のライトアップと連動した夜の町の演出



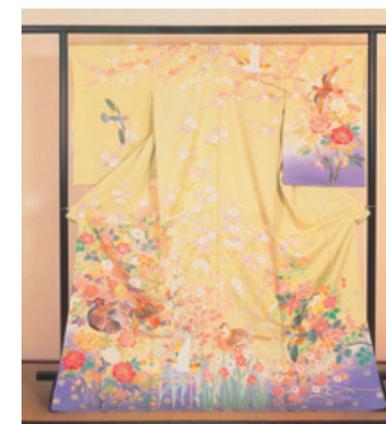
石川門

◆伝統文化の継承と活用

名所旧跡や伝統工芸、芸能など本地域の様々な文化を継承するとともに、観光資源としての活用を推進する。

【施策例】

- ◇兼六園、金沢城を核とした加賀百万石関連文化遺産群の保存と活用の推進
- ◇日本の至宝の旅プロジェクトの推進
 - ・伝統工芸の制作工房などを巡るツアーの開催
- ◇伝統工芸・芸能の次世代への継承
 - ・小中学校における伝統工芸・芸能体験等の実施
 - ・技能の記録・保存と後継者の育成
 - ・工芸体験による制作物のまちなかでの展示
- ◇地域の歴史資源の発掘と活用
 - ・芭蕉等の当地ゆかりの歴史的な著名人の活用



加賀友禅

◆アクセス環境の向上

北陸新幹線など本地域と都市圏を直結する交通基盤の強化を進めるとともに、駅等の交通要所からの二次交通を充実し、本県の玄関口として県内の各観光地へのアクセスの向上を図っていく。

【施策例】

- ◇高速交通網の整備
 - ・北陸新幹線の整備促進
- ◇二次交通の充実強化
 - ・周遊バス等の交通網の拡大
 - ・バス会社共通プリペイドカード・乗車フリー券等の検討
 - ・レトロバス・ライトアップバスの充実
- ◇案内機能の拡充
 - ・観光案内板、バス・鉄道の路線案内板などへの外国語表記
 - ・金沢観光情報センターなど案内所の充実
- ◇金沢港への観光客船の寄港誘致



金沢駅「もてなしドーム」



金沢港

3. 白山地域 ～白山麓の自然と文化を発信するレクリエーションエリア～



雪だるまつり

白山地域は白山国立公園を擁し、野生生物の豊富な原生林などの大自然が広がるとともに、白山信仰や伝統芸能などの山村文化が形成されている。

また、白山麓のスキー場群を始めとした、様々なスポーツやレクリエーションの場として多くの人に親しまれている。このため、日本の貴重な財産である豊かな自然環境を保全するとともに、山麓で育まれてきた生活文化など、様々な魅力を多くの人に知ってもらうための仕組みづくりを進め、その魅力を全国に発信していく。

◆貴重な自然環境の維持・保全と活用

本地域最大の資源である豊かな自然環境の維持・保全を図るとともに、その魅力を広く知ってもらうための仕組みづくりを進めていく。

【施策例】

- ◇ 白山周辺での全国トレッキング大会の開催
- ◇ 国立公園施設の整備
 - ・ 白山登山道の整備、道標・案内板などの整備
 - ・ トイレや休憩所の整備
- ◇ 白山ろくテーマパークの整備
- ◇ 豊かな自然を活用するエコ・ツーリズムの推進
 - ・ 白山自然保護センターやふれあい昆虫館、林業試験場など専門研究施設と連携した専門家の組織化、インタープリター等の人材の育成
 - ・ 名木・巨樹めぐりなど多様なツアーメニューの提案



スカイ獅子吼

◇ 広域的な観光ネットワークの形成

- ・ 恐竜をテーマとした白山周囲の隣接県との連携強化
- ・ 白山スーパー林道を活用した飛弾地域との連携強化

◆山村体験など地域の文化に根ざした資源の活用

白山麓には、白山信仰と結びついた独自の生活文化が息づいているため、これらの山村文化を体験できるようなメニューづくりを進めるとともに、棚田などの山村景観の保全活用を進めていく。また、スキー場などのレクリエーション施設の更なる活用を図っていく。



手取峡谷

【施策例】

- ◇ 白山ろく民俗資料館の展示、研究の充実
- ◇ 農山村文化を活かした交流の推進
 - ・ 棚田など伝統的な農山村景観の保全
 - ・ 伝統的な家屋などを活用した交流・体験施設の整備
 - ・ 農林業の体験、山村の生活文化の体験など多様な体験プログラムの企画・提案
 - ・ 地域の伝統工芸事業者と連携した工芸体験プログラムの企画



ハーブの里「ミントレイノ」



石川県ふれあい昆虫館

- ◇ 体験型修学旅行の誘致と民宿での分泊対応など受入れ体制の整備
- ◇ 地形条件や地域のスポーツ施設を活用したスポーツ観光の振興
 - ・ 地域にあるスポーツ施設を活用した合宿の誘致
 - ・ スカイレジャー・ゲートボール等多様なスポーツの促進
 - ・ スキー場における外国人観光客の受入れ体制の整備
 - ・ 地形特性を生かしたマウンテンバイク、スカイレジャーなどのスポーツ施設の整備
 - ・ 草花の植栽など、スキー場の閑散期活用の推進

◆アクセス環境の向上

加賀地域や岐阜県飛弾地域、福井県奥越地域等との連絡道路の整備を推進するとともに、公共交通の充実を図り、自家用車によらずとも白山麓の魅力を体感できる環境づくりに努めていく。

【施策例】

- ◇ 道路ネットワークの整備
 - ・ 小松白川連絡道路の整備
 - ・ 国道157号の整備などアクセス環境の向上
- ◇ 二次交通の充実強化
 - ・ 金沢や加賀温泉郷と連絡する周遊バスの運行検討
 - ・ 福井県奥越地域と結ぶバス路線の運行検討



手取峡谷下り



白山室堂ビジターセンター

4. 加賀地域 ～温泉を中心に多様な観光資源が融合したもてなしの郷～



那谷寺

加賀地域は、加賀温泉郷で有名な本県の代表的な観光地であり、那谷寺などの歴史資源や、九谷焼、山中漆器などの伝統的工芸品の産地としても知名度が高く、加えて繊維や機械などの産業集積も見られる。

加賀温泉郷は、国内外から多くの観光客が訪れる知名度、実力とも全国のトップクラスの温泉地であり、訪れた人を楽しませ、癒すための「おもてなしの伝統」が息づいている。

しかし、近年の景気低迷や旅行形態等の変化などを原因として、温泉地への観光入り込み客が減少傾向にあることから、更なるおもてなしの向上に努めるとともに、温泉地のまちづくりなどを通じた観光振興を図っていく。

◆温泉地の活性化

温泉地を歩いて散策できるようなまちづくりを進めるとともに、温泉施設の利用者への適切な情報提供、さらに、予防医学などと連携した温泉の新たな活用を推進する。

【施策例】

- ◇ そぞろ歩きが似合う情緒のある温泉地の演出
 - ・ 温泉街における足湯・手湯施設の整備、案内板・ベンチなどの一体的な整備による雰囲気演出
 - ・ 廃業旅館や廃看板など景観阻害要素への対策の推進
 - ・ 総湯など共同湯の美化、リニューアルによる温泉街の魅力の向上
 - ・ 空き店舗を活用した物販飲食施設の整備
 - ・ 域内周遊バスの運行や駐車場の確保などによるまちあるき周遊の促進
 - ・ まちづくり団体等との連携の強化
 - ・ ゆかりの人物のクローズアップなど歴史テーマ性の演出と情報発信
- ◇ 加賀温泉郷が一体となった情報発信への取り組み
 - ・ 夏場の各温泉のイベントを連携した「加賀温泉郷夏まつり」の開催
- ◇ 温泉旅館の再生
 - ・ 利用客・専門家などの評価を取り入れたサービス向上システムの導入
 - ・ 温泉源泉や施設内浴槽などにおける泉質に関する情報提供
 - ・ ユニバーサルデザインによる施設整備の推進
 - ・ 創意工夫による特徴ある多様な宿泊施設の整備



山中温泉／こおろぎ橋



山代温泉／はづちを楽堂



片山津温泉／柴山湯花火

- ◇ 温泉地での日帰り対応の強化
 - ・ 旅館の入浴施設の開放、共同割引システムの導入
 - ・ 飲食店や土産品店など商店街や企業との連携の強化
- ◇ 健康維持と癒しの温泉地づくり
 - ・ 温泉効能のPR及び温泉療法の普及
 - ・ 医療施設等と連携した人間ドックプランなど健康・医療分野でのメニュー開発
 - ・ 泉質と効能などの知識を有する温泉入浴アドバイザーの設置



尼御前岬

◆地域産業の観光資源化

山中漆器、九谷焼などの伝統的工芸品や機械、繊維、食品など地域の特色ある産業について、観光資源化を推進する。

【施策例】

- ◇ 産業観光の推進
 - ・ 九谷焼、山中漆器など伝統的工芸品の制作体験、展示、販売機能を備えたプラザの設置
 - ・ 機械や食品などの製造業における工場見学ルートなどの整備
 - ・ 地域の工場などをめぐる産業観光ルートの提案
- ◇ 地域の歴史文化の発掘と観光資源化
 - ・ 廃鉱山や明治・大正期の建築物等の近代遺産の観光活用
 - ・ 橋立地区や大聖寺地区などのまちなみ修景
 - ・ 橋立地区などの北前船に関する情報発信
- ◇ 日本の至宝の旅プロジェクトの推進
 - ・ 伝統工芸の制作工房などを巡るツアーの開催



九谷焼

◆広域連携とアクセス環境の向上

小松空港における航空路線の拡大や北陸新幹線の整備促進など、都市圏を中心とした県外と本地域を結ぶ交通基盤の整備を推進するとともに、加賀地域と隣接各地域との道路網整備や二次交通網の整備・接続を進め、周遊環境の向上を図る。

また、周遊バスなど域内を巡る公共交通網の充実を進め、温泉地を中心とした地域の多様な観光資源のネットワーク化を推進する。



安宅の関跡

【施策例】

- ◇ 高速交通網の整備
 - ・ 北陸新幹線の整備促進
 - ・ 小松空港における国際・国内航空路線の開設促進
- ◇ 道路ネットワークの整備
 - ・ 小松白川連絡道路の整備
 - ・ 観光周遊道路の整備促進
 - ・ 道の駅など情報発信施設の整備
- ◇ 二次交通の充実強化
 - ・ 小松空港や加賀温泉駅をターミナルとする二次交通網の整備
 - ・ 鉄道・バス等と連携したレンタカーの推進
- ◇ 吉崎や丸岡など隣接観光地との広域連携の強化
 - ・ 県境を越えた周遊バスなど広域二次交通網の整備
 - ・ フィルムコミッションによる映画・ドラマロケの誘致推進
 - ・ 共同PRやイベント等の実施

第5章 ■ 推進体制

本県の観光振興に当たっては、県、市町、事業者、観光団体等がそれぞれの役割を認識し、相互に協力しながら諸施策に取り組むための連携・強化を図りながら推進していく。

1. 役割分担の明確化

◆県

県は、観光振興を図るための計画策定や金沢城をはじめとしたランドマーク的な施設の整備、大規模イベントの企画・実施、海外誘客のためのキャンペーン事業、観光リーダーの育成、県内での主要施設案内標識の整備、総合観光マップの作成などの全県的な観光振興事業に取り組む。

このほか、市町等が行う事業を促進するための助言、指導やコーディネーターとしての役割を果たす。



◆市町

新観光プランに沿って、地域の特性を生かした観光振興方策の策定のほか、近年の日帰り観光の重要性をも踏まえ、温泉地をはじめとする観光地の見直し再整備に当たっては、まちづくりの観点から十分検討し、観光客に魅力のあるまちづくりなど総合的かつ具体的な施策の展開を図る。

また、地域の観光関連団体の育成や観光事業者、地域住民などとの連携・協力体制による観光振興施策の円滑な推進を図る。

観光関連団体、観光事業者などの自主的・主体的な観光振興策に支援、及び指導、調整を行う。

◆県観光連盟、地域の観光協会、温泉旅館組合等の役割

県観光連盟は、県内の観光関連団体等の民間を主体とし、県全体の観光振興を図るため設立された組織であり、全国規模の観光キャンペーンの実施、観光実務者の育成などソフト対策を中心としたPRやおもてなしの心の向上などの事業のほか、各地域の観光協会等との連携により振興事業に取り組む。

また、地域の観光協会、温泉旅館組合等の観光業界は、観光は民間が主体的役割を担うとの意識に立ち、行政と連携・協力しながら、それぞれの役割分担に基づき地域におけるイベントの企画・実施、観光マップの作成、観光資源の発掘や魅力向上、おもてなしの心の向上、観光施設やイベント等のPRキャンペーンなどの観光振興事業に取り組むとともに、機動的な活動ができるよう組織体制の充実、強化に努める。

◆県民の役割

訪れた人々を温かく迎える親切なおもてなしにより、県民総ぐるみでの観光客の受け入れを心がけ、県民の財産である本県の観光資源に愛着を深め、大切に、自らが観光レクリエーションを楽しむとともに、美しいまちづくりや観光地の美化運動などに積極的に参加する。

2. 県の観光行政組織の強化

◆観光交流局の設置

本プランでは、観光産業はサービス部門だけでなく農林水産業から製造業、運輸・通信など幅広い産業部門が関連するものと捉えており、近い将来基幹産業へと成長させていくことを目標としている。

また、石川県の観光振興にあたっては、まちづくりと一体となった観光振興、国際交流と海外誘客の推進など、広範な視点からの観光振興の取り組みが求められている。

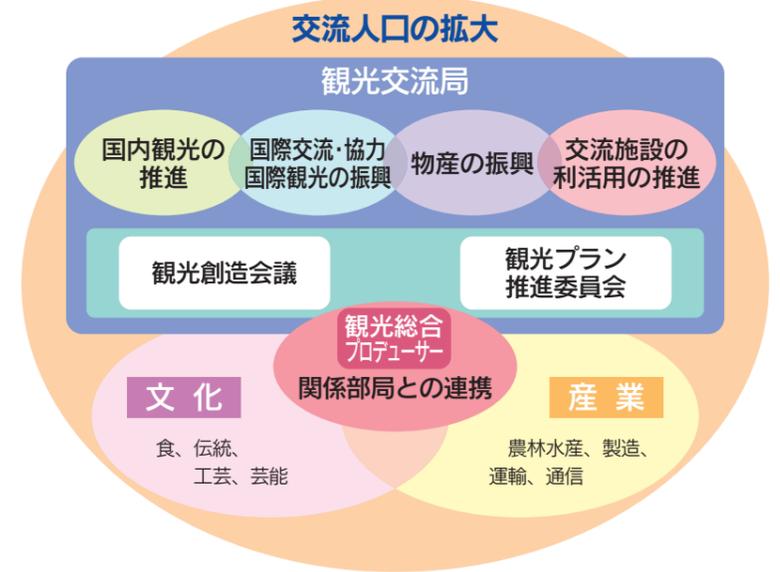
このため、県の観光行政を担当する組織についても、新たに観光交流局を設置し、交流人口の拡大による地域活性化と観光産業を取り巻く関連事業等との係り合いをも視野に入れた、総合的な施設展開を図る。

◆観光創造会議の設置

これまで石川県における観光振興は、県内資本の観光事業者を中心に進められてきており、このことは、観光による石川県内への波及効果をより大きくし、石川の独自性の発信にも寄与してきたが、その一方で、外からの視点が希薄になり、グローバル化や全国的な観光ニーズへの対応が必ずしも十分ではない面もあった。

このため、国内外の各分野に精通する有識者等で構成する「石川県観光創造会議(仮称)」を設置し、大所高所から新しい時代に相応しい観光振興施策への提言をいただくなど、今後の石川県の観光施策に多様な視点を取り入れる体制づくりを図る。

また、観光プランを総合的に推進するため、適宜、プロデュース能力を有する専門家を配置して、効率的かつ確かなプラン推進の原動力とする。



◆観光プラン推進委員会の設置

地域により良い影響を与える観光振興方策を進めるためには、観光交流局のみならず、関係する産業やまちづくり、福祉・教育などさまざまな部門との連携を欠かすことはできない。

このため、主要な観光振興プロジェクトの推進にあたっては、県庁内の関係部局により構成される観光プラン推進委員会を設置し、観光交流局がコーディネーターとなって観光振興施策の円滑な実施に努める。

3. 県観光連盟、(財)金沢コンベンションビューローの機能強化

石川県観光連盟については、組織運営において県主導から民間主導への転換を図り、本県の観光PRの主体として機動的な運営が行われるよう組織の拡充を検討していく。

(財)金沢コンベンションビューローについては、学会等の開催誘致や開催準備支援などの諸事業がより効率的、効果的に実施できるよう、他機関との合併も視野に入れ機能強化を図る。

4. 観光基礎データの充実

観光関係施策の効果的な推進のためには、その判断の基礎となる種々の情報の収集・整理及び分析の精度を高めることが不可欠である。

◆観光統計の全国的な統一と基準への移行

国土交通省では、観光入り込み客数の統計手法について、全国統一基準を定め、同基準による観光統計手法への移行を推進していることから、本県においても、平成17年より同基準に則った統計を実施する。

◆多様な観光客のニーズの的確な把握

本県を来訪する観光客の動向等を把握するために実施する県観光動態調査においては、観光満足度等の調査、空港、高速道路の利用者調査、外国人に対するアンケート調査や、年代、性別など属性ごとのヒアリング調査を必要に応じて実施し、観光ニーズの把握に努める。

また、インターネットを活用した全国の観光トレンド情報の収集や団塊の世代や女性などターゲット別の観光ニーズ調査等を実施し、今後の観光施策に反映させる。

石川県観光交流局交流政策課

TEL. 076-225-1126

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地